

「サンポート高松」のにぎわいあるまちづくり

1. はじめに

高松市は、北は多島美を誇る波静かな瀬戸内海に面し、南は徳島県境に至る、海・山・川など、恵まれた自然を有する広範な市域の中に、にぎわいのある都心やのどかな田園など、都市機能・水・緑が程よく調和し、豊かな生活空間を有する、人口約41万人、面積約376km²の都市です。

暮らす人・訪れる人、それぞれがウェルビーイングな心地よさを感じ、国内だけでなく国外からも認知され、注目されるまちとなるよう、「人がつどい 未来に躍動する 世界都市・高松」を目指して、まちづくりを進めています。

2. サンポート高松のまちづくり

昭和63年に瀬戸大橋が開通し、平成元年に新高松空港が開港するなど、本市を取り巻く環境が大きく変化する中、サンポート高松では、四国の中核・中枢的機能を担う都市として、更なる飛躍・発展が遂げられるよう、新しい都市拠点の創造を目的とし、官民一体となって、これまで、四国一の高さ151mを誇る「高松シンボルタワー」、国際会議場や国の合同庁舎の整備などが、順次、進められてきました。

また、令和6年3月には、新高松駅ビル（高松^{オルネ}ORUNE）がオープンし、本年2月に、約1万人を収容できる「香川県立アリーナ」が開館、4月には、徳島文理大学（高松駅キャンパス）が開校したほか、令和9年夏には、ホテル「マンダリンオリエンタル瀬戸内ー高松」の開業が予定されており、ウォーターフロントに位置する恵まれた環

境を最大限に活用し、活力とにぎわいのある都市空間の形成が図られつつある状況です。



現在のサンポート高松（全景）

3. エリアマネジメント

サンポート高松においては、官民による整備に一定の目途が立ち、利活用の段階を迎えていることから、今後、重点的にエリアマネジメントに取り組む必要があると考えています。

本市では、これに向けた仕掛けづくりとして、「サンポートFACTプロジェクト」を始動させ、令和5年度からJR高松駅前広場などの公共空間を開放する社会実験に取り組むとともに、エリアのイベント情報の一元的な発信が可能となる「たかまつイベントマップ」の運用を開始し、イベントへの参加者は大幅に増加しています。

今後は、このサンポートFACTプロジェクトを通じて、社会実験の開放エリアを拡大するなど、エリア全体のブランド価値を更に高めるとともに、公共空間の利活用のルールを設け、民間主体のエリアマネジメントの構築につなげたいと考えています。



サンポートFACTプロジェクト社会実験（JR高松駅前広場）

4. ウォーカブルなまちづくり

香川県と連携し、サンポート高松において、歩いて楽しめる歩行者優先の空間づくり（プロムナード化）を進める中、香川県立アリーナの開館に合わせて、JR高松駅から香川県立アリーナの主動線と交差する市道高松駅北線の一部区間を、4車線から2車線に縮小するとともに、土日祝日の午前9時から午後9時までの間、車両の通行止めを行いながら、イベント等の開催が可能な空間とする運用を開始しています。

また、そのプロムナード化区間の愛称募集を行い、応募総数545件の中から「サンポートガーデンプロムナード」が選ばれ、プロムナード完成・愛称銘板除幕式も行いました。



サンポートガーデンプロムナードでのイベント



高松市長 おおにし ひでと
大西 秀人

5. スマートシティに向けた取組

香川県立アリーナでの大規模イベント、サンポートガーデンプロムナードの運用開始によるサンポートエリアへの自動車交通の流入抑制やうろつき交通の解消など、既存駐車場のマネジメントを図るべく、本市が保有する地理空間データ基盤を活用し、県・市で共同開発した、駐車場満空情報アプリケーション「どこ駐車ナビ高松」のサービスを、本年2月から開始しました。

この運用により、周辺の駐車場の満空情報が事前に確認できることで、空いている駐車場への円滑な誘導が図られ、香川県立アリーナオープン後の大規模イベント時においても、大きな交通渋滞は確認されていません。

本市では、今後とも、地理空間データ基盤を活用し、行政や民間が保有するデータをつなげ、組み合わせることで、様々なまちづくりの課題解決やサービスの向上を推進していきます。

6. おわりに

本年9月には、一般社団法人全日本建設技術協会の建設技術講習会が高松市において開催されます。JR高松駅周辺には、サンポート高松や日本三大水城の高松城跡で庭園美が堪能できる玉藻公園のほか、国の特別名勝に指定されている栗林公園や国の史跡及び天然記念物に指定されている屋島など、数多くの景勝地があり、風光明媚な瀬戸内海の景観とともに皆さまをお迎えいたします。

皆さまのご参加を心からお待ちしております。